


 日本体育大学

神奈川県

保護者会会報

タイトルロゴ 蒔谷 蘆 聖

2021

特別誌 新型コロナウイルスとの闘い

令和元年12月、中国武漢で最初の肺炎患者が確認され、令和2年2月5日には厚生労働省がクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」で10人の感染者が確認されたと発表しました。2月27日に全国の小中高に臨時休校要請が出され、4月7日に出された緊急事態宣言は5月25日まで続きました。我が日本体育大学も、卒業式、入学式そしてほとんどの行事が中止となりました。

保護者会の皆様のご協力でご実施されてきた6月の保護者会総会は書面決議となり、11月の日体大フェスティバルへの参加や12月のキャンパス見学会をはじめとする同窓会、保護者会主催の行事も尽く中止となりました。

今この冊子をお手元にされておられる新入生、在学生そして卒業生の保護者の皆様も、私達の子どもたちと共に少なからず苦しい日々を過ごしたと思います。

例年は神奈川県保護者会役員会の30～40名が月一度のペースで健志台キャンパスに集まり、各種行事の計画やこの会報誌の取材編集作業を行って参りました。しかし、令和2年は感染拡大防止のために集まって議論することもできませんでした。学生や大学の状況を見守りつつ安全を祈願しながら、定期会議をWeb会議に切り替えるなどいつもと異なる役員会活動となりました。

私達役員会は、今後も様々な状況にあらうとも、保護者会としての情報発信、大学と保護者との繋ぎ目を務めたいと思っています。

今回の会報誌はこうして編集をしている今この時も、令和3年1月7日に発せられた2回目の緊急事態宣言の最中です。

例年の神奈川県保護者会会報誌は、各種行事の報告、学友会活動や箱根駅伝の応援記事などで構成し保護者の皆様にお伝えして参りました。しかしながら、全世界にとって特別となったこの年に我が日本体育大学の学生は何を想いどう過ごしてきたかということも少しもお伝えできればと思いました。加えて、大学はどのような対策を実施し、それらを保護者・学生はどう受け止めたのか、アンケートなどの形で調べ、お伝えしたいと思いました。

神奈川県に在住されている全ての学生とその保護者の皆様の健康と安全を祈念して。

日本体育大学神奈川県保護者会役員一同

神奈川県保護者会の皆様へ

支部総会にぜひ、御出席を！



日本体育大学 副学長
松井 幸嗣

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を最優先に、この1年、保護者会の活動もそのすべてが中止を余儀なくされました。

毎年、5月下旬から開催される都道府県支部総会も当然のことながら開催を見合わせる事となり、残念ながら保護者の皆さまにわたしたち教職員が直接、大学の近況や学生（お子さま）たちの様子をお伝えする機会を得ることはできませんでした。

「大学になっても保護者会？」と、なかなか年に1度の総会に足を運んでもらえないと聴きますが、決してその時間を無駄にはさせません。

教員は、自身の授業やクラブ活動を通じて、日頃よりその眼に映る学生の姿をつぶさにお伝えします。あるいは、それぞれが担当する授業の1コマを紹介することもあります。

いっぽう職員は、それぞれの窓口を訪ねてくる学生のひとつひとつの表情や言葉から、リアルな学生生活について、その一端を披露します。いずれも、保護者の皆さまにはみせることのない学生（お子さま）たちの別の顔があるかもしれません。ここに驚きを感じるかもしれませんが、同時に、保護者の間でたくさん共感できる心のうちを知ることができ、安心を得られることも少なくありません。

またわたしたちにとっても、保護者の皆さまの想いに直接触れることのできる貴重な機会でもあります。新年度、保護者会より、支部総会の御案内が届きましたら、なんとか日程をご調整戴いて、御出席ください。

必ず、「来年も来ようかな」と思ってもらえる御時間をご一緒できるものと確信しております。



神奈川県保護者会会長
小泉 光正

新型コロナウイルス禍のさなか、日本体育大学神奈川県保護者会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

また、日頃より本県保護者会の活動に対して、深いご理解と多くのご協力を賜りましてありがとうございます。

現在、2期・2年続けて日本体育大学神奈川県保護者会の会長をさせて頂いております小泉光正でございます。改めて、よろしく願いいたします。

皆様のお子（学生）さんもりモート講義でペースがつかめずに苦勞されているかと思えます。特に体育大学でのキャンパスライフを夢見ている1年生にとっては訳が分からないことだらけと、察します。

2020年4月からの新年度では当初予定していた日体大キャンパス見学会（世田谷・健志台）・日体大教職員さんの講演講話・日体大フェスティバルでの模擬店への手伝い・同窓会主催の就職セミナーサポート等全て実行出来ない状況で今日に至っております。また、保護者のキャンパスへの出入りも規制されている状況であります。

さて、本県の学生数は2020年度1419人となっており東京都に次いで全国2位の多さであります。全体の学生数は7300人です。数多くの本県ゆかりのある在学学生・卒業生が活躍しております。日体大＝スポーツ、との連想は今まで誰しもが思う所でありましたが今や日本体育大学は5学部9学科と単科大学でなく総合大学へ移行しています。

体育・スポーツから考えられるニーズをくみ取りながら大学の形を大きくしている最中であると思われまます。

今後も、本県保護者会では世田谷と健志台キャンパスを交互に見学会を開催を考え、教員の講演と職員の講話を含めながら他の企画を入れ保護者の皆様の見聞を少しでも広く、興味を持たれることを役員皆で考え提案をしている所です。また、同窓会の方々が就職セミナーを開催される際キャンパス見学会を同日に開催し保護者の方々の手間を少なくしたいと思っております。

今後も神奈川県保護者会は保護者の皆様・同窓会・大学と連携を行いながら学生の活動全体を最大限サポートして行きたい。新たな試みとして、パソコン等での保護者会開催としてのキャンパス等の紹介や講演・講話を計画中でもあります。

今年度、神奈川県保護者会では日本体育大学へ数々の質問と保護者会会員の皆様へアンケートを実施、アンケート内容を大学へ届け、またそれらを日体大ホームページ→保護者会→神奈川県にてご覧になれます。

最後に、日本体育大学の発展と本県保護者会の保護者の皆様・学生の皆さんの健やかなる発展を願い挨拶とさせていただきます。

神奈川県同窓会からのメッセージ



日本体育大学神奈川県同窓会
北相西地区事務局長
獅々倉 聡
(平成元年3月卒業)

必ず春は訪れる

「皆さん、いかがお過ごしですか？」

学生の皆さん、どのような生活を送っているのでしょうか？リモートによる講義や感染症対策を施した状況での活動など、今まで経験したことのない状況であることは想像できます。驚き、戸惑い、不安などマイナス面の部分ばかりがクローズアップされている

こともあり、少なからず気持ちが減入ってしまうのも致し方ない事かなとも思います。そんな時に何ができるのでしょうか？ストレスをどのように解消すればよいのでしょうか？

「今だからこそ、出来ること」

そんな時だからこそ、新しい自分を発見することも可能なのではないでしょうか。新しい発見は活力になり、その一歩を踏み出す自分に大きなエールを送ろうではありませんか。そして、悔いごとなく明るい未来を創造し、飽くなき探究心を発揮していただきたいと思います。そうすればおのずと道は開かれていくものです。開かれている道を選ぶより、道を切り開くことに意義を見出し、邁進して行って欲しいと思います。

「当たり前だったことに…」

そのような中で、通常の生活では当たり前前に思っていたことに感謝することが重要だと思える毎日になっています。家族・友人・先輩・後輩・同僚等、様々な方々の支援があっ

ての自分だったのだと気づかされました。また、登校してくる生徒の笑顔にも元気をもらっていることも改めて認識しました。では、「今までの自分はどうだったのか？」と思うと、「笑顔がない時が多かったのでは」と反省しました。まず、自分自身をより良く変え、周囲の方々や生徒にも元気を与えられるような存在になることを大切にしていきたいと思います。様々な制限された生活から身近な方々に感謝し、ありがたさを見直すことにつながりました。

「健康であることだ」

日刊スポーツの12月1日版に言葉の重みを感じた一文が目飛び込んできました。これは「正面タックル」という日本体育大学 松浪健四郎理事長の記事に記されていました。いつも楽しみにしている記事です。様々な角度からの切り口で大変勉強になり、まさに、元気をいただいています。「職業、収入より健康」との見出しから記されていましたが幾多の困難と経験からの「まず健康であることだ」との文末は多くの意味を含んでいると感じました。また、当たり前の「健康」についても考えさせられました。自分自身が健康であること、周囲に対しても健康についての配慮を行うこと、こんな時だからこそ、「健康」の本当の意味をじっくり考えなければならぬと思いました。

「必ず春は訪れる」

辛い時こそ、笑顔で。輝く未来に向かって、日々楽しく過ごして大きな成長へとつなげてほしいと思います。寒い冬を乗り越えてこそ、春は訪れます。



日本体育大学神奈川県同窓会
高等学校教員
渋谷 亮太
(平成31年3月卒業)

私と同窓会

学生の皆さん、初めまして。日体大卒業生の渋谷と申します。2年前まで皆さんと同じ日体生として、勉学に励んでいました。現在は、県内の高等学校で教員として2年目を過ごしているところです。今年から担任を持ったことで、1年目と比べて仕事量が増えているという実感がありますが、その忙

しさを楽しみながら日々過ごしているところです。

ここでは、私が大学生として、そして卒業生として同窓会にどのようにして関わらせていただいたのかを記すことで、少しでも学生の皆さんが「同窓会」のイメージを持ってもらえるといいなと思い、書き記させていただきます。

私が最初に同窓会と関わらせていただいたのは、大学1年の時でした。高校時代にお世話になった先生との関係から、日体フェスティバルで保護者会の方たちと模擬店を出店することになり、そこで学生代表ということで携わらせていただいたのが始まりでした。これが毎年の慣例行事となって、私

が在学している4年間で様々な方とお会いさせていただいたり、お話をさせていただいたりしました。

また、同窓会の先生方に教職支援センターで個別指導をしていただきました。そこでは週1日、採用試験の一次試験対策（教職・一般教養や専門教養、小論文など）を行っていただきました。大学4年の時には、キャンパスに来てくださり、採用試験対策として面接や集団協議、模擬授業などの二次試験対策講座を開いていただきました。こうした大学内でのご指導のおかげで、自分自身は採用試験に現役合格することができました。

大学外では、年に1回集まる場があり、そこでもたくさんの方とお話をさせていただくことで、自分の知らないことを知ることができたり、新たに関係を広げられたりすることができました。

以上のように、同窓会は学生が卒業後に集うことで、大学生に向けた活動や情報交換・交流の場として開かれています。

様々な「日常」が変化している世の中ですが、「日体生」として学生も卒業生もまとまっていくことが重要だと感じています。

共に頑張っていきましょう！

大学事務局へのアンケート

保護者会では大学に対してアンケートを送り、主にコロナ禍において大学運営がどのように行われたのかについてお尋ねしました。



ここに大学からの回答をご紹介します。2020年12月時点での回答であることに留意頂き、ご一読頂ければ幸いです。ご回答を頂いた日本体育大学の各部門のご担当者様にはご協力に対しお礼申し上げます。有難うございました。

1. 卒業式・入学式

Q1 中止の可能性については学内でいつ頃から検討が始まったのですか？

【回答】規模を縮小して卒業生のみでの卒業式を準備していましたが、例年通りの開催は困難であると判断されることから、2020年2月26日に具志堅学長を本部長とした危機対策本部が設置され、3月2日に2019年度卒業式、2020年度入学式の中止を決定しました。3月4日付で保護者に通知しています。

Q2 その過程で、日程の変更や場所の変更、或いは規模の縮小など実施方法の変更などについてはどのような検討状況だったのでしょうか？

【回答】卒業式と入学式はプロジェクトチームを組んで計画しています。2020年1月21日に第1回の打合せがあり、卒業式について例年通り実施することで進んでおりましたが、2月18日の第2回打合せで新型コロナウイルス感染症対策に対応し規模を縮小して短縮式典とすることが確認され、具体的な内容について次回の打合せで検討することとなりました。2月28日に行われた第3回の打合せでは、祝辞・来賓挨拶の時間短縮、次第の一部削除等による式典時間短縮、保護者の大学近隣での待機禁止も含めた出席禁止措置、座席間隔の確保等による密状態防止、検温、アルコール消毒液設置等の感染予防対策を行い卒業式を実施することで進めておりましたが、3月2日危機対策本部により中止が決定いたしました。

Q3 卒業式の中止決定について、学生、保護者、或いは同窓会からの反応はいかがでしたか？

【回答】※ Q7にて回答

Q4 卒業式の中止決定までに一番大変だったことは何ですか？

【回答】※ Q5にて回答

Q5 入学式の中止決定までに一番大変だったことは何ですか？

【Q4・5回答】卒業生、新入生にとって一生に一度の記念行事であるため、あらゆるケースを想定し実施の方向で検討しておりましたが、一番大変だったことは検討の過程より、新型コロナウイルスが未知の感染症であることや感染拡大状況等により、最終的に中止の決定をせざるを得なかったことです。

Q6 入学歓迎式が11月15日に行われました。実施決定までの過程を教えてください。また、当日は通常の入学式から変更した点、特に注意を払われた点などを教えてください。

【回答】コロナ禍により未だキャンパスに来ることができず同級生とも面識がない新入生がいる状況に対して、日本体育大学の学生となったことを少しでも実感できる機会を設けようと学内で検討した結果、2020年10月8日の卒業式・入学式実施プロジェクト第1回打合せの際、責任者の松井副学長より新

入生歓迎式を実施することがプロジェクトメンバーに伝えられました。当日は、新型コロナウイルス感染防止対策を重視し、入場時のサーモグラフィによる検温、手指消毒液の設置、座席のソーシャルディスタンスの確保等を実施しました。新入生については出席を任意としn-passによる事前の出欠確認を行いました。登壇者及び関係教職員を除く教職員の出席も任意とし、保護者の出席はご遠慮いただきました。式の内容についても簡素化し短時間で実施できるようにいたしました。参加できなかった学生、保護者向けにライブ配信を行っています。

Q7 入学歓迎式について、その後新入生からの感想や反応はどうでしたか？

【Q3・7回答】卒業式、入学式については、中止の決定が公になるまでは開催についての問い合わせはございましたが、中止決定の周知後や入学歓迎式については特にご意見等はございませんでした。

2. 学友会クラブ・サークル全体の運営と対外的対処

Q1 部、サークル同好会などの活動の自粛・抑制などの対処方法はどのようなプロセスで決めていったのですか？非常事態宣言ですとか、感染者数の推移など状況変化に合わせていくのは大変だったのではないのでしょうか。

【回答】本学の危機対策本部の決定を踏まえ、学友会では2月下旬より、原則、活動の自粛を全クラブに求めました。感染拡大の防止の観点より、両キャンパス4/3から当面の間、入構禁止措置に伴い学友会活動を中止といたしました。その後、国や自治体の動向を踏まえ、6/29から入構と活動の緩和をすることとなり、大学の感染対策に関する基本方針と活動指針を示し学友会のガイドラインを基本に、学友会各団体のガイドラインを策定していただき、順次活動を再開し、現在に至ります。

Q2 また、対処ルールを決めていくうえで苦労された点について教えてください。

【回答】政府等の見解を基に、治療薬がない新型コロナウイルスの最新情報を収集しながら、ガイドラインを作成し、毎日の健康チェック、検温、行動記録を徹底させていくことです。

Q3 特にオリンピック・パラリンピック出場（予定）選手が所属する部などは特別なご苦労があったのでしょうか？

【回答】これは本学に限らず、世界中の選手達が直面していることだと思います。これまで経験のない学生たちに学友会会長からは次のようなメッセージを送りました。

「多くのトップアスリートは、このような状況に置かれなくても、やるべき事を自ら考え、強い意志を持って実践し続ける自立した強さがあり、世界と戦っています。自由に練習でき



ないことは確かに辛いことです。しかし、これを辛い状況と切り捨ててるのか、そうではなく制限された状況でも思考して実践する力を養える期間と捉えられる事ができるのか。これはこの後の競技人生等で大きな差となって現れる。」

また、スポーツ心理学の高井秀明 准教授は、本学のスポーツメンタルトレーニング指導士、公認心理師・臨床心理士の協力を得て、「アスリートにおける新型コロナウイルス感染症の10の心理的対策」というテーマで関連情報を動画配信し、自粛期間中の学生たちの競技復帰するために必要な心理的なサポートを実施していただきました。

Q4 関東リーグなど公式試合への対処については協会や他大学などと本学事務局が協議するようなこともあったのでしょうか？

【回答】大学からは、競技や種目のガイドラインを入手し各学友会団体がそれに沿ったガイドラインを作成するように指示し必要に応じて対応していただいています。本学事務局が、直接協会やリーグと協議することはありません。

Q5 来年度に向けての対処方針のような案があれば教えてください。

【回答】現時点では、現行のガイドラインを遵守し、感染状況やワクチンや治療薬の動向を見ながら、必要に応じてガイドラインの改定を行っていくということしか言えません。

3. 進学・就職活動

Q1 一般企業への就職活動、公務員試験、教員採用試験それぞれについて行われた支援対策について教えてください。

【回答】教職センターでは、コロナ禍でも教員採用試験合格を目指す学生の学びの場を維持する為、大手出版社と共同で本学学生に特化した動画視聴型の教員採用試験対策講座や自宅で受験できる模擬試験を随時実施しております。実践的指導力の養成を目標に掲げて今年度で6年目を迎える「日体教学舎」は、その実績が高く評価され、横浜市教育委員会と本学が提携し、横浜市教育委員会が実施している「よこはま教師塾『アイ・カレッジ』」を本学学生の為だけに、教学舎内に設置することができました。また、元学校教員・校長経験者を中心とした教職センター学習支援員による教員希望者相談ブースを設置し、学生のニーズに合わせた学習支援を行っております。こうした成果もあり、今夏に行われた教員採用試験については、11月6日時点の速報値で、30名以上の在学学生、卒業生から合格報告を受けています。企業就職に関しましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、採用人数削減、採用時期早期化、採用オンライン化など、企業の採用活動が大きく変化しています。上記に対して本学では全ての面談（進路相談、模擬面接、書類添削等）を4月からオンラインに切り替えました。また3月に行われる予定だった学内合同企業説明会を新型コロナウイルス感染症の拡大予防の観点から7月に延期し、オンラインで行い3日間にかけて38社、延べ約400人の学生が参加しました。この参加者の中には1、2年生も含まれ、例年以上に企業就職に対する危機感が増しているように感じております。3年生に対する就職ガイダンス、インターンシップガイダンスもオンラインで前学期に行い、また後学期のキャリア講座は全てオンラインにて行っておりま

す。公務員対策講座も全てオンラインに切り替えました。オンラインにすることで、いつでも視聴することができるというメリットを学生に享受できているのではないかと感じております。

Q2 コロナ禍において、進学される学生たちにはどのような影響がありましたか？

【回答】進学する学生に関して今のところ新型コロナウイルスで大きな影響があったという報告はありません。

Q3 本年度の就職率、試験合格率にコロナ禍と思われる顕著な変化がありましたか？

【回答】今年度の就職率、教員採用試験、公務員試験等の結果に関しては現在調査中です。来年の4月中まで継続するため、情報が整い次第ご報告いたします。就職に関しては、主要企業の大卒内定者の減少や来年度に関しても不透明との報道があるため、現在3年生には早期の準備とインターンシップの参加を促しています。

Q4 来春卒業となる学生たちは就職や受験などについて例年通りの予定が立てられず相当に不安ではなかったかと思えます。具体的にはどのような相談がありましたか？また、どのような相談が多かったですか？

【回答】進路相談に関しては例年の相談内容と大きな変化はありませんでした。選考がオンラインになったことで、オンラインでの面接対策についての相談は多かったと感じています。今年度実施予定（実施中）の学内講座一覧は、n-passに掲載しています。学生にはn-passにて周知しておりますが、今一度保護者の方からも周知いただけますと幸いです。

4. 新一年生への対処

Q1 入学試験の実施には影響はありませんでしたか？

【回答】2020年度入学者選抜については予定通り実施し、入学しております。

Q2 遠方からの入学生の入寮手続き、アパート斡旋などに困難はありませんでしたか？

【回答】入寮前や入寮直後に緊急事態宣言が宣言され、帰省したまま長期に帰寮できない学生も多かったため、感染拡大の状況を見ながら、寮費や食費の支払い金額や方法などについて、法人や会計課、各業者と調整した上で、極力保護者の皆様の負担を軽減できるよう検討を重ねました。その結果、保護者の皆様に対して手続きや金額等についての詳細を周知できるまでに時間を要したため、夏まで多くの問い合わせを受けることとなり混乱いたしました。アパートや学生会館等の斡旋については、業者委託（学生サポートデスク）しており、大学が直接的な対応はしていないため、そのことで困難なことはありませんでした。なお、例年は、原則として中途退寮を許可していませんが、感染を恐れて退寮を希



望する者もいたため、今年度は許可いたしました。

Q3 入寮後の一年生の寮生活はどのような様子ですか？

【回答】4月に一齐に入寮していれば、先輩から色々教えてもらえるところ、入寮時期がバラバラになったため、入寮当初は戸惑う寮生が見受けられましたが、次第に慣れた様子です。11月の入学歓迎式の後は任意参加で寮生を集め、関係教員の紹介と根本寮監長から挨拶がありました。

Q4 新一年生の寮生に対して生活面で特別なケアが実施されたのですか？

【回答】寮生活の監督をする先生方を通じ、定期的に新型コロナウイルス感染症予防対策に関わる変更や協力要請事項などを通達、意見や要望を聞いて対応いたしました。特に精神的に不安定になっていると認められた寮生については複数で話を聴き、解決策を一緒に探すなど努めました。

Q5 新入生は入学当初から対面式でのオリエンテーションや通常授業は受けられなかったのでしょうか？その場合はどのような対策を取られたのですか？

【回答】新入生のオリエンテーションは対面では実施いたしませんでした。これについては、n-passを通じ、履修申告等、必要な手続方法を配信したほか、配付予定だった学生証等については、全て実家に郵送する方法に切り替えました。授業においては、開始日を5/4に繰り下げるとともに、原則、非対面授業で開始することになりました。また、オンライン授業準備に係る支援金を学生一人当たりに対し、保護者会より1万円を援助いただき、大学からは4万円の合計5万円を支給いたしました。

Q6 新一年生への支援策について、他大学にはないような特徴的なものがあれば教えてください。

【回答】新一年生に限ったものではありませんが、コロナ禍で困窮した学生を救うため教職員、同窓生、関連企業等から寄付を募り、それを原資として給付型奨学金である雄渾奨学金を定員5名(学部生)から45名に大幅に増やし公募をかけました。先般、審査が終わり、選考された学生に対して給付手続きに入っているところです。なお、同奨学金はこれまで対象としていなかった、留学生も学部生枠に組み込んだほか、大学院生も5名別枠で設定して公募をかけました。また、入学式が中止となり、期待されたものとは違う形となった大学生生活を送っている新入生に対し、入学したことを実感してもらうために、感染防止対策を徹底した上で入学歓迎式(ライブ中継も実施)及びホームルームを11/15に実施いたしました。

Q7 新一年生への対処で上手く実施できた策、課題が残った策があれば教えてください。

【回答】前例のない対応ばかりのため、評価は難しい部分がありますが、オンラインでの授業が主流になったこともあり、情報機器(PC等)の操作に不慣れな新入生に対するフォローも対面ではなく電話等で実施したため、直接画面等を確認してその理解度を計ることが難しいという課題があります。例年は新入生オリエンテーションでホームルームを開催していましたが、今年度は中止となったため、新

一年生が大学に馴染めないのではないかと心配の声が教員からも上がりました。Zoomやメールなど様々なツールを使用し新入生と係わりを持っていただくよう依頼し、例年に比べ教員も積極的に取り組んでくださったことは非常に良かったと思います。入学歓迎式の日にはホームルームも実施し、画面ではなく直接クラス担任の先生やクラスの仲間に出会えることに、新入生がとても喜んでくれたとの報告も受けております。

5. 授業の進め方

Q1 4月の授業の遅れはどのようにリカバリされたのですか？

【回答】3週間授業の開始を遅らせたため、当初より設定されている補講期間とは別に4週間の予備期間を設け、各授業担当者が履修者の理解度に合わせ、補習を実施できるよう日程を調整・追加することにより教育内容を補完しました。

Q2 リアルタイム或いはストリーミングでオンライン授業を準備するのは、教職員の皆様も大変だったのではないのでしょうか。どのような苦労がありましたか？

【回答】前学期教員対象アンケートより、「通信機器の準備」・「実技動画の撮影」の他、特に「授業資料作成」が従来の対面式授業と比較し、時間を費やしたようです。映像配信を行わない場合でも、授業資料は普段口頭で説明していることを資料に落とし込む必要があるためです。また、事務局では学生・教員対象のマニュアルを整備し、授業開始後も各ニーズに応え随時内容を更新しました。さらに、普段は教室で学生からの質問に対して一定数共通で回答していたものを、メールや授業システムで個別質問・返答が可能となったことから、活発に質疑応答が行われ、対応に時間を費やすこともありました。しかし、このことにより、学習進度が学生毎に把握でき、きめ細やかな教育に繋がりました。

Q3 教授陣、学生はオンライン授業の運用に慣れてきた様子ですか？

【回答】授業開始直後は、教員・学生ともにオンラインツールの使用方法を中心に問合せが多くありましたが、マニュアルや、学内Webサービス学生支援システム【nssu-passport(n-pass)】のQA機能、メール、オンラインツールを活用し、前学期での経験も活かしながら授業が展開されている様子です。学生が自身の生活サイクルに合わせて授業を受講できるよう、教員は課題提出期間の延長やオンデマンド配信等も積極的に進めています。

Q4 オンラインでのリアルタイムやストリーミング授業に関しては、大学からも学生に対してアンケートが実施されています。4月7月の二度の調査結果から学生の反応をどのように捉えていますか？

【回答】4月は、全体の77%が回答し、通信環境や授業形態に対する「不安感」や「難しい」という声が目撃的でしたが、7月では全体の92.5%が回答し、授業方法・内容に関する要望が多くを占めました。回答率や内容から、遠隔授業への積極的な姿勢がうかがえました。また、本結果を受け、学生の実態把握と周知、更なる教育効果の充実を目指して教職員を対象に全学FD研修会を開催し、前学期の振り返りを行ない問題点の抽出や先進的な授業実践を共有し、後学期授業の改善

につなげました。今後は、各授業に対する学生の授業評価アンケートより、担当教員がその結果を踏まえた自己点検・評価を行ない、授業改善、学生の実情に応じた適切な課題量や内容等の工夫を継続して進めていきます。

Q5 7月の二回目調査の後に採られた改善策などがあれば教えてください。

【回答】学生のPC保有率、通信環境が整備されてきたことから、オンラインツール（Zoom、Microsoft Teams等）の使用について、補助的に認めていたものを正式に認めることとしました。遠隔でありながら、より対面式に近い授業展開や、事後学習ツールとしてオンデマンド配信を可能とし、授業の幅を広げることを目的としました。ただし、通信環境・居住環境が整わない学生も一定数いることから、学生の負担とならないよう授業実施ガイドラインを改訂しました。

Q6 オンライン授業運用の残された改善点はありますか？

【回答】実技、実習の授業に関する授業展開や成績評価に関しては、更に検討を必要と考えております。また、学内ネットワークシステムの管理、オンラインツールの随時見直し、課題未提出学生の要因把握（履修意欲低下・通信環境の不具合）やフォロー体制を整えていくことが課題です。

6. 学生寮の運営と寮生への対処

Q1 世田谷・健志台の各寮についてはどのような対策が採られましたか？

【回答】学生寮では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための学生寮のスローガン「互いを思って、距離を取ろう」を掲げ学生寮のみんなで一丸となりコロナ禍を乗り切るよう努めています。寮内共通事項、食堂の利用、アルバイトについて、体調不良者のリカバリールームの利用期間中について、談話室、自習室、ミーティングルーム、外出・外泊について等の遵守事項を設け、寮代表者を通しての伝達、掲示による徹底等を実施しております。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドラインについても配信・配付を行っております。

世田谷：深沢寮・和泉寮については、寮監補（寮在住）の教員3名と学生代表の寮委員長・事務が連携を取りながら随時対応を行っております。

健志台：できるだけ、寮管理人や清掃、食堂の運営が止まることのないよう、対策を講じ、また、寮内で誹謗中傷や差別防止のため、個人が特定されないよう配慮しています。

Q2 寮生への対処で難しかった点がありますか？

【回答】寮内のWiFi環境の改善に限界があり、部屋によっては部屋でリモート授業を受けられず、WiFi環境の良い場所に移動して対応してもらう場合があります。

Q3 寮の運営に関わる皆様が特に苦心されたところを教えてください。

【回答】寮内で新型コロナウイルスの感染クラスターが発生しないように神経を使っています。慣れが生じて共有部分でのマスクの着用を怠る学生もおり、注意喚起を続けております。また、感染が強く疑われるような体調不良者や濃厚接触者などが発生した際に、保健所から国が用意した療養施設に移送

する車が到着するまでの間、学内で隔離する施設の確保やそこへの移送、移送先でのケアや、陽性者や濃厚接触者が寮内で発生した際に、管理人業務・清掃などが中止されるため、その場合の対応をどうするかなど、ルール作りと運用について苦心しました。

7. オープンキャンパス、日体フェスティバル、実演会等の大学行事への対処

Q1 実際にはどのようなイベントが中止になったのでしょうか？

【回答】

<令和元年度>

- ・OPEN COMPANY ～学内合同就職説明会～
- ・学友会祝勝会
- ・卒業式
- ・オープンキャンパス
- ・令和2年度特別講師が巡回する教育実習生の直前指導
- ・養護実習事前指導（一部中止）
- ・保健医療学部入学前講座（全日中止）

<令和2年度>

- ・入学式
- ・新入生オリエンテーション
- ・入寮式
- ・オープンキャンパス（一部）
- ・日体フェスティバル
- ・体育研究発表実演会



Q2 計画・実行主体がイベントによって異なると思いますが、例年の大学行事の中止または延期を決定する過程で特に難しかった行事は何ですか？

【回答】どの行事も在学生や入学を希望してくる方々にとって、大切なものであると考えています。特に卒業式、入学式については、学生にとっても保護者の皆様にとっても、とても大きな節目であることから、危機対策本部でも中止という判断を下すまでにはかなりの議論がありましたが、最終的には人命最優先という観点に立ち、苦渋の決断をいたしました。また、体育研究発表実演会については、外部の施設を1年前には確保している関係からキャンセル料の問題もあり、中止の判断を下すタイミングが難しい状況でした。

Q3 オープンキャンパスの中止は大学を知ってもらう機会が失われ、入学希望者にも大学側にも大きな痛手であったと思います。代替策としてはどのようなものが実施されましたか？

【回答】HP上でWEBのオープンキャンパスを開催いたしました。主に、動画のコンテンツを作成し、特設ページにて掲載をいたしました。また、オープンキャンパス専用のInstagramを開設し、ライブ配信の中で、高校生からの質問等に回答をいたしました。10月と12月には、規模を縮小し、人数制限を設け、新型コロナ対策をしっかりと行った上で対面式のオープンキャンパスも開催いたしました。

以上



神奈川県保護者会アンケート結果

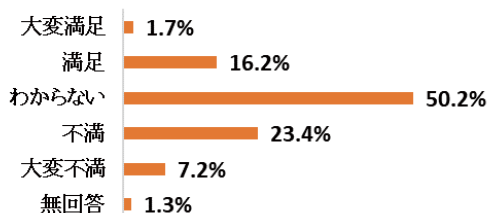
コロナ禍における保護者の皆様の思いを集約して大学に届け、また、保護者会として何ができるか検討するためアンケートを実施しましたので概要をご報告します。たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

調査概要

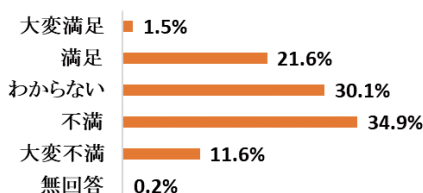
- (1) 調査時期 2020年11月6日～2020年11月30日
 (2) 調査方法 往復ハガキを郵送し、回答した返信ハガキ返送回収
 (3) 調査対象 神奈川県保護者会会員 1,405名 回答人数 458名 (回収率 32.6%)

コロナ禍に対しての大学の対応について

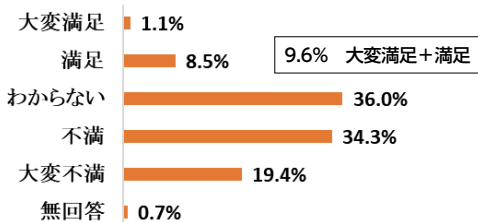
Q1 大学側の感染対策に対する不安はありますか？



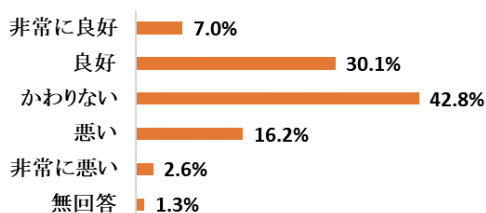
Q2 映像配信授業（リアルタイムまたは録画）での取り組みは適切だと思いますか？



Q3 コロナ禍において学生達に寄り添う支援がされていると思いますか？



Q4 学生さんの様子はいかがですか？



Q1、Q2、Q3 全ての設問について、「不満」が「満足」を上回った。特に学生達に寄り添う支援については、9割を超える保護者が満足していなかった。

(主な不満理由)

- ・ 対面授業、実技、実習が再開しない (102件)
- ・ 学費の減額・返還がされない (設備利用なし、授業内容に見合わない)、支援金不足 (101件)
- ・ 映像配信授業内容 (課題のみ、一方通行、授業の質)、PC環境整備困難 (59件)
- ・ 大学の説明不足、現状が不安 (54件)

Q4 約8割の学生が良好若しくはかわりない状況であったが、学生の様子として生活リズムが崩れる・精神が不安定・視力低下等健康面で心配の声が寄せられた。

コロナ禍における神奈川県保護者会の活動について

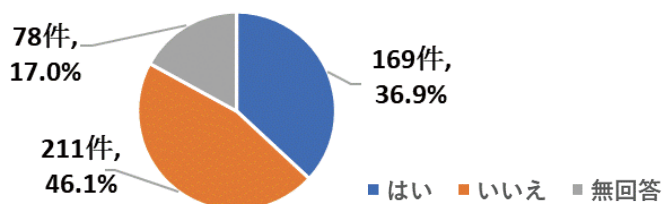
Q5 毎年キャンパス見学会を前期に健志台、後期に世田谷で行っていましたが、コロナ禍においては、代替案を検討しております。

保護者会に動いてほしい企画はありますか？

(寄せられた主な企画)

- ・ 大学に要望事項 (学費減額・返還、対面授業・実習再開、大学の情報提供等) を届ける (52件)
- ・ オンラインによる開催 (キャンパス見学会、講演会等) (26件)
- ・ キャンパス見学会、講演会、就職セミナー (22件)
- ・ 現状実施不要 (11件)

Q6 企画があった時、参加しますか？



「いいえ・無回答」の主な理由

- ・ コロナウイルス感染が不安 (42件)
- ・ 仕事の為 (30件)
- ・ 内容、日程による (22件)

神奈川県内学生個別アンケート結果

日本全土を覆ったコロナ禍は日本体育大学及びその学生も例外ではなく、安心安全に向けた行動を心掛け、授業、部活動、学生生活全般においてこれまでの過ごし方が急激に変化する中、学生たちは戸惑いながらも前向きに取り組んでいます。

2020年11月にコロナ禍での学生の実態について、神奈川県保護者会役員の協力を得てアンケート調査を実施しました。

※回答数:22

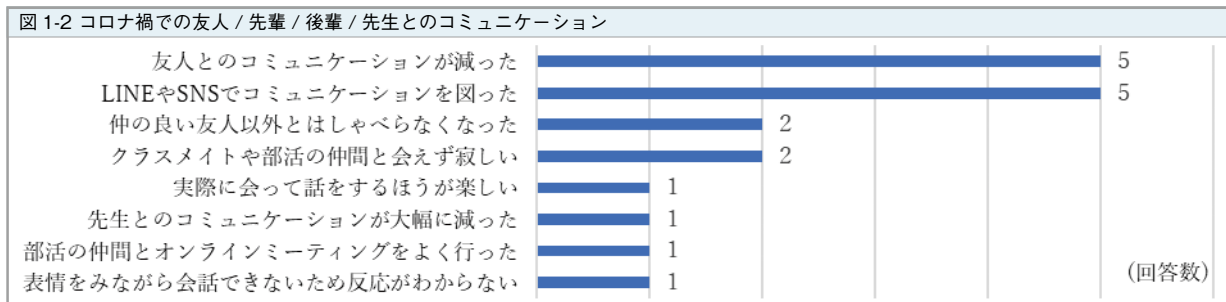
1. コロナ禍での学習環境・部活動について

「3密」を避けるため授業が「対面」から「オンライン」に変わったことで感じた事について質問しました。

通学時間がなくなり使える時間が増えたこと、コミュニケーションで苦労している様子がうかがえます。



また、友人／先輩／後輩／先生とのコミュニケーションの変化について質問したところ、SNSやLINEを使いコミュニケーションを維持しているものの、交友関係が狭くなり、新入生との関係づくりがしにくい状況にあることがわかります。



2. コロナ禍での生活の変化について

コロナ禍の生活で以前と変わった事について質問しました。外出を控えたことでネットショッピングが増えた事交友関係をオンラインで維持したが、物足りなさを感じているようです。

コロナ禍での生活の変化
アルバイトが減り収入が減った
友達とオンライン飲み会を行ったが、直接会えなかったので寂しくつまらなかった
通学の時間がなくなったので、趣味に使える時間が大幅に増えた
交際費が減ったが、ネットショッピングでの支出が増えた

3. 就職活動について

コロナ禍の就職活動について苦労したことや後輩に伝えたいことを4年生に回答いただきました。

これまで事例がなく、学校や先輩も経験していないので苦戦しながらも立ち向かっている姿がうかがえます。

コロナ禍の就職活動で苦労したこと
オンラインでの情報収集活動や面接であり、インターンシップの機会もなかったため、会社の雰囲気を確認できなかった
オンライン説明会だったが、慣れないため質問しにくかった
PCでのオンライン面接だったため、自分を伝えきれなかった
自分をアピールする事が重要になるため、早い段階から自分の考えを整理しプレゼンテーションの練習をしてほしい

学友会インタビュー

ここでは各団体が苦難の時期をどのように乗り越えようとしてきたのか、保護者がインタビュー形式で聞いてきたお話をご紹介します。(参加者敬称略)

①体操部

——まず初めに自己紹介からお願いします。

新井 体育学部体育学科
4年 主将 新井庸太です。

平井 体育学部社会体育
学科4年 副主将 平井洗貴です。

福岡 児童スポーツ教育学科4年 副主将 福岡編彩です。
——ありがとうございます。本日はよろしくお願ひします。
では早速質問に入ります。



長い自粛期間中、どんな方法で練習を行っていましたか？

新井 練習をメインに考えているのは副主将の2人で、自粛期間中もこの2人が中心に各班のリーダーと相談し合い、考えてくれていました。

平井 基本的にはZoomで練習をしていました。部員を10人1チームに分けて、主に筋トレ・柔軟・有酸素運動をメインで行っていました。

福岡 自粛期間の最初の半月程は個人のトレーニングを行っていましたが、1月に予定されている演技発表会を視野に入れていたので、その後はどれくらいの部員がZoomを繋げられるのか試しながら行いました。練習内容は音を極力出さないように気を使いながらマンネリ化しないよう、そしてみんなのモチベーションを保てるよう工夫しました。

——ありがとうございます。Zoomでの練習のためお家で過ごす時間も長く、個々の練習になってしまい、チームのモチベーションは、どうやって維持していききましたか？

新井 1月の演技発表会を目標に練習していました。しかし自粛中は開催も危ぶまれ、先が長すぎて部員のモチベーションが続かないと思い、一番近いであろう対面練習が始まった時に、前と変わらずしっかり動いて体操が出来るという事を目標に頑張ろうとZoomでも声をかけていました。

福岡 家庭の事情より動けない環境の部員はモチベーションが下がってしまうので、4年が個別にアプローチしてコミュニケーションをとる事で、対面練習までの気持ちを保つ事ができたと思います。

——ありがとうございます。次に活動再開までの流れと感染予防策を教えてください。

平井 まず先生方と話し合い、体操部の中でガイドラインを作成し、人数制限や時間制限をして大人数で練習をしないように対策しました。

新井 ガイドラインとは別に、対面練習を行うための体操部の要項も作成して部員に提示し、同意できる人から任意で参加するところから始まりました。

——最初はどの位の参加率でしたか？

平井 6～7割でした。

新井 4年の中でも家庭の事情で参加できない部員は、同事



情の非対面の後輩の指導をし、2部に分かれて練習を行いました。用具の面では布マットから消毒できるビニール製のマットに変え、夏場で大変でしたが出来る限り手袋やマスクを着用しこまめに消毒しながら行いました。

——実際に活動を再開した感想は？

新井 対面練習が始まるまで色々なバージョンを想定して話し合い、指摘も受け入れながらやってきたので特に苦労はなかったと思います。

——新入部員の勧誘活動はどんな方法でしたか？

平井 個人のSNSから何時に体操部のオンライン説明会をします！と広め、当日ライブ生放送を行いました。

新井 僕たち体操部だけではなく、どの部活も新入生獲得に苦労しているとのことで、学友会を取りまとめている総務部さんに福岡さんが相談し、学友会全体でオンラインの部活動説明会が行われることになりました。

——ありがとうございます。逆に自粛生活でもよかった事や、自粛生活があったからできた事はありますか？

福岡 私は、体操場で体操が出来ることが何よりも幸せな事で、制限される中で私たちが出来る最大限の事を全うする事にも気づかされました。この時期怪我をする部員に対しても、今できる最大限の事をしようと励まし合いました。そして先生方が練習内容の提案や声掛けをしてくださり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

平井 僕は当たり前前の環境は当たり前ではなかったと気づかされました。その中で自粛期間中家の中にいたからこそ例年以上に色々な人と話をし、それぞれの想いを知ることが出来たのでいい時間でした。

新井 自粛期間中は部としては大変でしたが、今部員全員が演技発表会に向かって一つになっているのは、あの辛い自粛期間があったからだだと思います。

——ありがとうございます。次は体操部のことも伺ってみたいです。率直に体操部とはどんなことをするのですか？

平井 体操には一般体操と競技体操があって、本学でも沢山のオリンピックメダリストを選出しているのが競技体操で、点数を付けない競技性のない体操が一般体操と呼ばれ、ラジオ体操・ラベンダー体操など身体健康増進を目的とし

て老若男女問わず行う体操を僕たち体操部がやっています。
福岡 バランスボール・手具体操・組立体操・マット体操等です。

新井 一般体操はヨーロッパで盛んなので日体大体操部は知名度も高いです。

福岡 日本では数少ない一般体操の普及者として多方面で発表をしています。

新井 部員数90名以上で合わせて体操演技をする体操部は日本では唯一だと先生から聞きました。

——ありがとうございます。では最後に日体大体操部をアピールしてください！

新井 大学に入学するまで、ほとんどの部員が違うスポーツをしてきて、初めての挑戦で集団美を作ろうと目標を持って努力し頑張ろうと活動するのは凄いと思います。

福岡 歴史が長く、今回のコロナの件でも沢山の先輩方からメッセージを頂き、先輩方との強い繋がりもこの部の強みだと思います。

平井 スタメンがないので、頑張れば頑張った分自分の与えられたポジションで最大限に輝ける事ができ、全員が主役にもなれるところです。

新井 今年度の体操部のテーマは「誇り」です。小さなルールややるべきことが段々と緩くなってきている現状を不安がる声が上がリ、先輩方が築いてくださった多くのことを一つずつ思い出して活動してきました。その成果が1月に予定されている演技発表会で伝えたいと思っています。

——演技発表会、楽しみにしています。本日は練習前の貴重なお時間を頂きましてありがとうございました。

② 研修部

——今日はインタビューに応じて頂き有難うございます。まずは自己紹介からお願いします。

徳田 徳田大夢です。体育学部体育学科の3年です。

——研修部は、どのような活動をされているのですか？

徳田 月曜日は体操、火曜日はバスケ又はバレー、水曜日はダンス、金曜日はバスケ又はバレーをおこなっており、活動ごとに担当を決め、その日の指導者となり、その他の人は生徒となり、指導者として指導にあたります。バスケとバレーは月ごとに火・金で交替しています。

——部員数は何人ですか（男女比 & 学年比）？

徳田 1~4年生で、男子33名 女子21名 6:4くらいです。

——部のアピールポイントを教えてください。

徳田 指導力だけでなく、競技力、人間力が身につきます。



——コロナ禍の質問です。部活動自粛期間中は、どのような活動をしていましたか？

徳田 Zoomなどを使い、後期の活動の進め方などについて話し合ったり、Zoom内での指導を行いました。

——部活動再開にあたって、活動の自粛・抑制がある中、どんなルールを決め、活動を始めたのですか？

徳田 活動前後の手洗いやうがい、活動中のアルコール消毒、自分が何をしていたかを、記入する行動管理表の提出をするようにしました。

——対処ルールを、決めていくうえで、苦労した点について教えてください。

徳田 今までなかった事だったので、その1回だけでなく、「習慣」にさせる事が大変でした。

——非常事態宣言ですとか、感染者数の推移など状況変化に合わせていかなければならない中、工夫された点などありましたか？

徳田 やはり、活動中のアルコール消毒、行動管理表の提出などが主なものになります。

——新入部員の勧誘方法はどのようになされたのですか？工夫した点はありますか？

徳田 日体大のポータルサイトにメールアドレスを載せ、そのメールアドレスに問い合わせてもらい、Zoomで説明会を行いました。またInstagramなども活用して、普段の活動の写真や動画なども載せました。

——新しい生活様式が始まっている中、昨年度と比較して、新しい運営方法、活動方針、練習内容を教えてください。

徳田 新入生歓迎会など食事がある会などは中止し、人が多く集まる事は行わず、部活中も隣の人と間隔をとること、マスク着用の徹底などを実施しました。

——今後、チャレンジしていきたい事などありましたら、お聞かせ下さい。

徳田 Zoomなどのビデオアプリを使った指導などに挑戦してみたいと思っています。

——お忙しい中、インタビューのご協力、ありがとうございました！今後もご活躍をお祈り申し上げ、応援させていただきます！

③ ソングリーディングクラブ

——ソングリーディングクラブは副主将の島村愛海さんにお話を伺いました。まず、活動自粛期間中は、各選手・メンバーがどのように練習などをしていましたか？

島村 活動自粛中の活動は、それぞれが家からZoomをつ





ないで行っていました。授業のお昼休みの時間を使ったり、みんながつなげやすい時間を見つけて活動していました。

——通常の練習どころか大学にも行けなくなった状態で、チームのモチベーションの維持方法は？

島村 正直言うと、こういった中でモチベーションを維持するのはとても大変でした。大会がなくなってしまった



り、そもそも開催されるのかもわからない状況で、オンラインで行うか悩んでいました。

ですが、会えない状況でも、オンライン上でお互いの存在を確かめ合いながら、活動することが、不安で寂しい気持ちを和らげることに繋がっていたように思います。

そういった、部員みんなで共有をしていくことがモチベーションになっていました。

——新入部員の勧誘方法の工夫は？

島村 大学が、オンラインでの部活説明会などを開催してくださっていたので、そちらにも参加しました。

あとは、私たちのInstagramがあるので、そこで活動をお伝えしたり、新入生からの質問を受けつけたりしていました。

——各選手・メンバーは、毎年目標としている大会が中止になったことによる喪失感、絶望感などの克服ができたのでしょうか？

島村 3年生にとっては最後のシーズンでもありましたし、悔しい思いもありますが、今はこのように活動できていることだけでもありがたいことだと思っています。

みんなでこの困難を乗り越えなくてはいけない中で、できることを全力でやるのみです！

——クラブ・サークル内で感染しないための対策、実行の難しさはどのようなものがありましたか？

島村 感染防止のマニュアルを作成し、それを全体で確認して守るようにしていました。

特に私たちは室内での運動部なので、部活中もマスクを外さないこと、一つの部屋に入る人数を減らすこと、換気をこまめに行うことを常に意識していました。

——活動再開への準備は進められましたか？

島村 こういったマニュアルを作成すること、密にならない施設を確保することなどの工夫を話し合っていました。

——活動方針などについて、大学、加盟している連盟などのコミュニケーションはうまく進められましたか？

島村 どこまでが良くてどこまでがダメか、と言う基準は、こういった混乱の中でもあったので最初は曖昧でした。そこで戸惑ったことも沢山あります。

マスクは活動中ずっとしてなくてはいけないのか、コーチなど責任者が必ずいなくてはいけないのか、他の部活とも話し合っ探り探り。といった感じでした。

今までの自分たちの「感染症」というものへの意識の薄さも痛感しました。

——その部・サークルに特有の困難などは起こりませんでしたか？

島村 ソングリーディングは、団体競技なので演技の練習では、みんなで集まるといことが必要不可欠な競技です。なので飛沫感染をどう防ぐのか、ということに苦労しました。

私たちはなにより部員同士でのコミュニケーションや、表情での表現を大切にしています。今まで大切にしてきたものを思うように行えないことが、もどかしくもありました。

それでも、マスクをしていてもどうしたら気持ちを表現できるのか、仲間同士心を合わせるためにどうしたらいいか、工夫をしてこの変化の年をもがきながら乗り越えられたのではないかな、と思っています。

最後に…

2020年は変化が起こった年でした。不安な思い、悔しい気持ち、思うようにいかないことも沢山ありました。

でも、その中でも、部員の仲間みんなで話し合い、今できることを模索し続けられた1年でもありました。私たちにとって、何もできなかった年ではなかったと思っています。

今こうやって活動をさせていただけるのは、大学、顧問の先生、コーチ、保護者の方、私たちの周りで支えてくださる全ての方々のおかげです。心から感謝しています。

これからもソングリーディングクラブ一同、皆さんに笑顔と元気を届けるチームを目指して、日々取り組んで参りますので、ご声援のほど宜しくお願いいたします！！

④ ラクロス部

——今日はラクロス部部長の亀山有希准教授にお話しを伺います。春先の活動自粛に入っていく過程では、大学や協会など外部組織とうまく連携できたか？



亀山 2月後半は男女とも大会が開催されたり、大会運営のサポートに行っていた時期でした。学生とFDLでその時に学外に出ていた学生を一旦全員戻そうということにしました。FDLは2019年に立ち上げたコーチと部長とコーチングエクセレンスセンターの先生が入っている組織です。女子は開催中の大会を途中辞退することに決めました。

男女全員を戻した後にすぐ自粛を決めました。ラクロス部は学内でも早い段階で自粛を決定したのではないかと思います。その後すぐにラクロス協会も活動自粛を決定しま



した。その時点では協会レベルが自粛を決定する団体はほとんど無かったので、ラクロスの場合は協会と大学間の日頃からの価値観のすり合わせが前提としてあったことが大きかったと思います。協会が示した感染防止に関する指針と、大学の危機管理本部から出される指示に従い自粛を決定したというところが入口になります。大学としてはその時期はまだ、各部の活動方針は各部に委ねる段階だったので、部の活動状況は様々だったと思います。

——活動自粛を継続する難しさはどんなところがありましたか？

亀山 結局6月末まで自粛することになり、様々な葛藤がありました。

少し話は遡りますが、2019年の段階で部員が自分たちで安全確保をしようという話が始まりました。部長やコーチがいないときに部員が怪我などで倒れた場合にどうするかという話です。デジタルで命のカルテを学生が現場で入力し、事故が起こったときに直ぐに部長やコーチが状況を把握し保護者や大学、病院に連絡できる体制を作りました。また、保健医療学部の救急医療の先生に講師をしてもらいラクロスに特化した緊急対応をレクチャーしてもらいました。「また来なくなる保護者会」を開催し、部と保護者が学年別にコミュニケーションする仕組みを作りました。これらの体制があって、コーチ、保護者、学生組織の意思疎通が上手くいき、自粛決定をすぐに決定できました。ですので、今振り返れば、苦しい自粛期間を乗り切ることができたのも自分達で決めた自粛だという意識がベースにあったことが大きかったと思います。自粛練習のガイドラインもコーチと学生に入ってもらって決めました。

しかし、終わりが見えない自粛であったので学生たちも段々と不安が募ってきていたため、Google フォームを使って不安に思っていることは何なのか、逆に上手くいっていることは何なのか、を部で共有していきました。

今までの縦の連絡網に加えて、緊急 LINE をつくり各学年代表から全員に素早く連絡ができるようにもしたりしました。クロスの壁当てを皆で10万回やろうと企画し、練習しているところを動画に収めて回数を集計していくようなことをし、与えられた環境のなかでどう一体感をもち楽しく過ごせるかという考え方が芽生えていったと思います。

自主練モデルは男女別だったので、互いに意見交換をしてラクロス IQ を高める戦略、トレーニング方法などを共有したりセミナーに参加するなどの取組も行いました。

——一年生の勧誘はどう取り組まれましたか？

亀山 そのような一連の取組で新しい課題として出てきたのが、新入生の勧誘でした。ラクロスはカレッジスポーツなので経験者がとても少なく、学生をどうやって獲得するかが問題でした。そこで学生たちは Instagram ライブを活用しました。

新入生はキャンパスにも来れないのだから、まずは日体大を知ってもらうというところから始め、新入生へのお悩み相談を企画したところ沢山の新入生が集まってきました。

また、軟式野球部さんとタイアップして腕立て伏せ大会などの新歓企画をやって両部の紹介をすることもしました。最終的には男子も女子も20名以上の学生が入部しました。学生たちの熱い想いのうえに何が大切なのかを見極めた活動だったと思います。

——本当に学生主体で取り組まれていったんですね。

亀山 ラクロスはカレッジスポーツだからか、協会も含めて共創という考えが根本にあり、開拓精神が旺盛です。学生たちがやりたい事をコーチ陣や組織と一緒に創り上げていくという文化が背景にあると思います。

2018年までは日体大ラクロス部は男子女子が自然なかたちで独立したものとなっていて、部長は両方のヘッドコーチと主将とだけ情報交換をする形でした。2019年からは部の組織を一旦整理し、保護者会連係、救護のグループやツイッターの係などができてより組織らしくなってきました。新型コロナによってこの組織がもっと進化をしてきているので、今の4年生が卒業するころにはもっと変わっているのではないかと考えています。

——まるで新型コロナが流行することを見越していたかのような組織改革が2019年からあったんですね。

亀山 日体大は UNIVAS に参加していて、2019年度に日本一安全なクラブ活動を目指していたラクロス部はカルテと救急介護の取組が日体大として安全確保に関する優秀取組賞の優秀賞を受賞しました。

2019年からのこの取組が、正解が判らないコロナ禍への取組に対しても対応のスピードを速めたと思っています。

——お話を聞いて学生主体の対応ということが分かりました。モチベーション維持の課題は克服できたと思いますか？

亀山 日本一を目指してやってきた4年生は大きな葛藤があったと思います。学生と話をしてみても、懸命にやってきた自粛中の取組に対する達成感と、ラクロスという競技ができなかったという事実の受け止めはそれぞれようです。卒業してから振り返るのかも知れません。この葛藤や価値観を卒業までに私、コーチ陣、学生と共創していくことがこれからの新しい取組になるのかなと思っています。

——最後に大学職員の皆さんと大学全体に与えた影響は？また今後には生かせる教訓は？

亀山 スポーツは社会と共にある、スポーツは私達の生活の一部である、ということをすごく感じています。ステイホームを通じて健康はとても大切だと思っています。

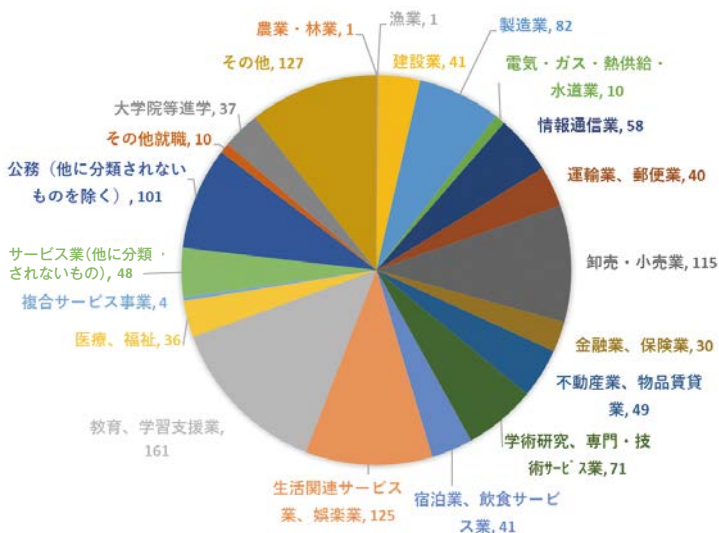
部活動再開についての是非についても受け止めは様々。しかし、その議論のまえに、スポーツは社会と共にあるという認識があれば、コロナ禍のようなことが起こっても安全にスポーツや運動ができる社会を造ることができると思っています。日体大としてもそういう取組をし、発信していくことが必要と考えていると思います。



卒業後進路情報

平成 31 年度卒業生のキャリア情報（令和 2 年 5 月 1 日現在）を紹介します。ここでは大学ホームページに掲載されている公開情報を基に保護者会でグラフにまとめて再掲しています。（数値単位は人数）

体育学部



体育学部

（体育学科、健康学科、武道学科、社会体育学科合計）
就職者数小計1024

進学者数小計37

その他（専修学校入学、進学・就職準備中など）127

保健医療学部

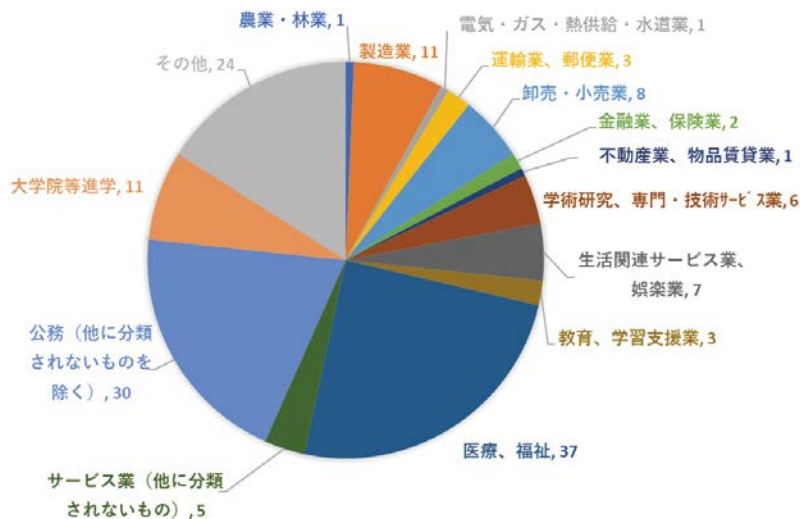
（整復医療学科、救急医療学科合計）

就職者数小計115

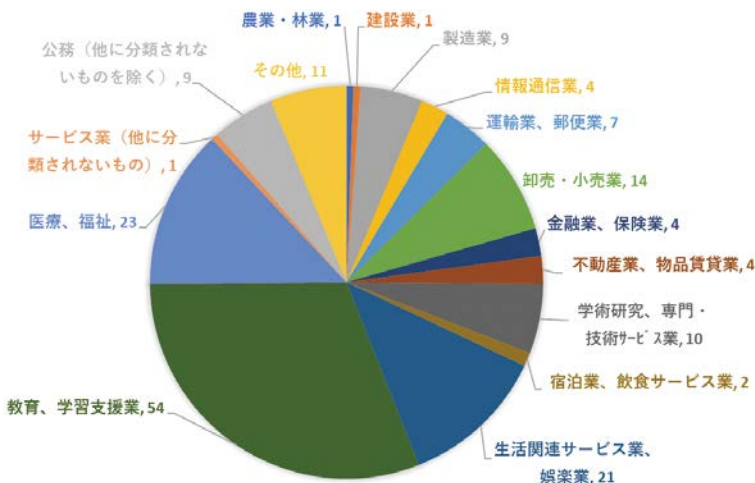
進学者数小計11

その他（専修学校入学、進学・就職準備中など）24

保健医療学部



児童スポーツ教育学部



児童スポーツ教育学部

（児童スポーツ教育学科）

就職者数小計164

進学者数小計 0

その他（専修学校入学、進学・就職準備中など）11

保護者会役員の活動について

令和2年度は38名の役員で活動しました。構成は会長、副会長、会計監査、総務、書記、会計、広報です。役員会は保護者会年間行事や同窓会協賛お手伝いなど準備の前に1回と、定期的には月一回土曜日の午後2時間くらいの会議を健志台キャンパスの会議室で行っています。今年度は第2回会合を除きすべてオンライン会議となりましたが、例年は8回程度を開催します。

各担当のお仕事は、総務は行事の会場準備、飲食手配、抽選会の景品購入手配など。書記は役員会の議事録作成と配信。会計は保護者会での活動諸経費の管理。広報は会報誌の作成と発行をメインに行事の会場案内・設営のお手伝い、キャンパス見学会の参加者同行などになります。

役員会での活動を通じ、役員間だけでなく教授陣・OBの皆様や学生たちとの接点が増え、楽しみながら「日本体育大学」を一層深く知ることができます。一緒に保護者会を盛り上げていきませんか？いつでもご参加をお待ちしております！

日本体育大学神奈川県保護者会会則

総 則

(事務局)

第1条 本会は日本体育大学神奈川県保護者会と称し、事務局を神奈川県保護者会会長宅に置く。

(目的)

第2条 本会は会員相互の融和、親睦と緊密な連絡を計り、保護者会本部と協力し、学生の健全なる育成を計り、大学と会員のリアルタイム双方向通信（大学からの現況や就職、クラブ活動等、会員からの質問、意見、要望等）のパイプ役となり大学に最大限の協力をし、支援していくことを目的とする。

(活動)

第3条 本会は前条の目的を達成するため、次の活動を行う。
(1) 保護者会本部と密接な連絡を取り、各支部との活動情報交換をする。
(2) 学業に関する年間計画及び学生生活一般に関する情報交換。
(3) 進路及び研究修養に関する支援。
(4) その他必要な活動を行う。

(会員)

第4条 本会の会員は、神奈川県在住の保護者又はこれに代わる者（以下保護者という）をもって構成する。

役 員

第5条 本会は、原則として次の役員を置く。

会 長	1名
副会長	3名
書 記	4名以上
総 務	4名以上
広 報	若干名
会 計	4名以上
監 査	2名

- (1) 会長は本会を代表し、会務を総括し、会議の議長になる。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長不在のときは代理を務める。
- (3) 書記は議事を正確に記録し、各種の会議に報告する。
- (4) 総務は会議の会場手配及び懇親会の手配を担当する。
- (5) 広報は大学、保護者会本部、各支部からの情報の収集及び会報・その他の発行を担当する。
- (6) 会計は本会の会計事務をつかさどり、定例総会に会計監査の結果を報告する。
- (7) 監査は随時会計の状態を監査し、定例総会に会計監査の結果を報告する。

(選任)

第6条

- (1) 役員は定例総会において保護者の中から選出する。
- (2) 会長は役員の中から役員会で選出する。（原則として卒業年の保護者）
- (3) 副会長、書記、総務、広報、会計、及び監査は役員会で決定する。
- (4) 同窓生は役員の3分の1以上を占めず、なお、会長にはならない。

(任期)

第7条

- (1) 役員の任期は原則として1年とし、学生の規定在籍期間を越えない範囲で再任を妨げないものとする。
- (2) 役員の任期は、定例総会終了後引き継ぎを完了するまでとし、会の運営が円満に行われるよう協力するものとする。

顧 問

第8条 本会に顧問を置くことができる。

- (1) 顧問は会長が役員会に諮って委嘱する。
- (2) 顧問は原則として会長経験者とする。

総 会

第9条 総会は定例総会、臨時総会とし、会長が召集する。定例総会は年1回開き、役員を選出、予算、決算、活動その他、重要事項を審議する。ただし、臨時総会は会長が必要とき、又は会員の半数以上が会長に要望したとき、臨時に開催することができる。

(役員会)

第10条 会長が必要のあるときは随時役員会を開き、会務を審議決定する。
役員会は会長、副会長、書記、総務、広報、会計、監査をもって構成する。

第11条 総会及び役員会の議決は出席者の過半数の同意を得るものとする。

会 計

第12条 本会の経費は本部よりの支部活動補助費、寄付金その他の収入を充てる。

第13条 会計年度は4月1日から翌年の3月31日までとする。

細 則

第14条 この会則に定めるものの他、定例総会開催時期等必要事項は役員会で決定する。

第15条 諸般の事情により定例総会開催が不可能と役員会が判断した場合は、役員会を定例総会に代わって開催できるものとし、議決事項を有効とする。
この場合、決算報告等は会報誌等に掲載し報告するものとする。

第16条 会則を変更する場合は、役員会の議を経て決定する。

付 則

1. この会則は、平成7年4月1日から施行する。
2. 一部改正したこの会則は、平成9年4月1日から施行する。
3. 一部改正したこの会則は、平成10年4月1日から施行する。
4. 一部改正したこの会則は、平成11年4月1日から施行する。
5. 一部改正したこの会則は、平成14年4月1日から施行する。
6. 一部改正したこの会則は、平成17年4月1日から施行する。
7. 一部改正したこの会則は、平成28年4月1日から施行する。
8. 一部改正したこの会則は、令和2年4月1日から施行する。

予算・決算

(単位：円)

令和元年度決算報告書		
項目	収入	支出
支部活動補助費	1,618,000	
参加費収入等	7,000	
雑収入（銀行利息）	10	
前年度繰越金	674,679	
総会・懇親会費		181,268
活動費		458,383
会議費		0
通信費		355,670
印刷・事務費		423,767
雑費		1,196
予備費		0
諸費支払合計		1,420,284
次年度繰越金		879,405
合計	2,299,689	2,299,689

(単位：円)

令和二年度予算		
項目	収入	支出
支部活動補助費	1,769,000	
参加費収入等	7,000	
雑収入	8	
前年度繰越金	879,405	
総会・懇親会費		0
活動費		550,000
会議費		20,000
通信費		700,000
印刷・事務費		650,000
雑費		5,000
予備費		730,413
諸費支払合計		2,655,413
次年度繰越金		0
合計	2,655,413	2,655,413

保護者会活動事業報告

行事

令和二年

- 4月 令和二年度総会【書面決議】
- 9月 関東ブロック代表者会【中止】
- 10月 第97回東京箱根間往復大学駅伝予選会応援【自粛】
- 11月 日体フェスティバル出店【中止】
(神奈川県同窓会協賛)
- 11月 全国支部会長連絡協議会【中止】
- 11月 保護者会アンケート調査（郵送）
- 12月 神奈川県同窓会主催「就職セミナー」後援【中止】
- 12月 世田谷キャンパス見学会【中止】

令和三年

- 1月2・3日 第97回東京箱根間往復大学駅伝応援【自粛】
- 3月25日 令和二年度保護者会会報誌発行
- 4月3日 入学式・保護者会紹介チラシ配布（予定）
- 6月9日 令和三年度総会（予定）

令和二年度保護者会役員会

令和二年

- 6月20日 第一回役員会【オンライン】
- 7月18日 第二回役員会【健志台キャンパスにて対面】
- 8月22日 第三回役員会【オンライン】
- 9月19日 第四回役員会【オンライン】
- 10月17日 第五回役員会・会報誌編集会議【オンライン】
- 11月21日 第六回役員会・会報誌編集会議【オンライン】
- 12月19日 第七回役員会・会報誌編集会議【オンライン】

令和三年

- 1月16日 第八回役員会・会報誌編集会議【オンライン】
- 2月20日 第九回役員会・会報誌編集会議【オンライン】
- 3月20日 第十回役員会【オンライン】
- 4月 第十一回役員会（予定）
- 5月 第十二回役員会（予定）

編後記

今年の会報誌の編集には例年とは全く違う次元のご協力を賜りました。大学事務局、学友会、同窓会、保護者会、そして何より私達子どもたち。本当に有難うございました。たくさんの声を聴いて、健康の大切さ、スポーツは社会の営みに必要不可欠なものだということを深く心に刻みました。この逆境を乗り越えた暁に、日本体育大学の存在意義は更に高まることと確信しております。



日本体育大学保護者会

<http://www.nssu-apg.jp/>

全国の保護者会支部から活動報告が寄せられます。

日体大 <http://www.nittai.ac.jp/> からリンクされています。

